

東京ソーシャルワーカー協会・2015年6月定期研修会・へのお誘い

元ウクライナ・ベラルーシ視察団団長

福島大学特任教授・清水修二先生講演

## 『原発事故と被災者支援

### ……家族・子ども・地域の視点から』

東日本大震災から4年が経過しました。1000年に一度といわれる災害の後遺症は重く、未だ震災からの復興が叶わないまま、不安な生活の継続を余儀なくされている人々も多くいます。特に、家族・地域・学校などの分断をもたらした原発事故による被災は大きく、長く人々の暮らしを左右しています。大人達の様々な葛藤をみてきた子ども達も大きな影響を受けていることでしょう。新たな復興を目指して、立ち上がろうとする今こそ、被災者への支援を見直し、震災をよりよい生活への起点とすることができるよう考えたいと思います。

そこで、原発事故以来、福島の復興を目指して、粉骨砕身の努力を重ねてこられた福島大学経済経営学類特任教授・清水修二先生をお招きして、福島の最新情報を基にお話しいたします。

どうぞ、一人でも多くのお仲間をお誘いの上、ご参加下さい。



【清水修二先生 プロフィール】東京都生まれ、京都大学大学院経済学研究科出身、東日本大震災以前より原発には批判的立場をとってきた。震災後は原発事故後の対応に奔走し2011年11月、民間のチェルノブイリ被災地調査団長としてウクライナ・ベラルーシを訪問、2012年3月「原発いらない！福島県民大集会」では呼び掛け人代表を務めた。現在福島大学経済経営学類特任教授。著書に『原発とは結局なんだったのかーいま福島で生きる意味』他。

日時 2015年6月27日（土）14時～16時30分

場所 明治大学リバティール・タワー1115室

主催 東京ソーシャルワーカー協会

協力 NPO 法人支えあう21世紀の会

後援 社会福祉法人東京都社会福祉協議会

NPO 法人日本ソーシャルワーカー協会